



新入会員歓迎会報告

かっぱ酒に和む歓迎会

岡田 安弘

心配された天候も回復した3月28日、新入会員（平成30年度の入会者）を歓迎する会が開かれた。アルコールが振る舞われるので、ノーカードだ。奈良交通バスなど思い思いの方法で87人が参加した。お迎えしたのは12人の1年生。ホスト役は昨春に歓迎してもらった11人の2年生。慣れぬことばかりで、開催幹事の方、まかないの皆さま、ベテランの方々の手助けがなければ、運営はままならなかっただろう。ホスト役一同、感謝しております。ありがとうございました。

当初予定の3月21日は天候が怪しかった。まかないを担当した皆さまは前日、食材を買うべきかどうか、やきもきされたようです。ホストは鉄板や金網を洗い、活動説明のための写真掲示板を用意しました。結局、雨で28日の開催となる。この日も予報は一時雨。臨時テントを張る案もありましたが幸い降らずに済み、後半は日ざしで汗ばむほどでした。

「ニューフェース 歓迎野宴 土筆伸び」。鈴木末一会長は開会挨拶の冒頭、一句を披露。緊張気味の1年生の表情が和む。新会員を紹介し、奈良・人と自然の会の緑のイベント専用キャップと名札が一人ひとりに手渡された。午前中は定例の活動。新会員はベースキャンプのテント倉庫などを案内してもらった後、花班の活動に参加した。

メニューは焼そば、バーベキュー、収穫した桜島ダイコンの味噌田楽、メインは打ちたて「わんこ蕎麦」。蕎麦グループの4人が早朝、計4キロを打って持参してくれた。まかない班は食材の下ごしらえと、おはぎを作ってくれた。日本酒の寄贈もあった。ビール、ソフトドリンクと用意は万端。

開始30分前、ベテランの指導でホスト役が炭に火をつける。食材を鉄板に並べる。「焼きソバは早くから作り始めないと間に合わない」。ベテランにせかされる。正午、開始のアナウンス。炊き出しに長い行列ができた。みんな食欲旺盛だ。1時間

余りで完食。キャベツが数枚残っただけ。「おいしかった」の音がうれしい。お世辞ではないでしょうね。

食後は活動説明。東屋を囲むように活動ぶりを撮影した写真をかかげている。各班のベテラン担当が説明し、1年生が熱心に聞き入る。食事が済んだころから竹筒の燗酒を求める人が絶えない。この竹筒では、ひやりとしたことを書かねばなるまい。



やかんで酒の燗をするのだとばかり思い込んでいた小生。そこでベテランから見せてもらったのは昨年の写真。やかんではない。太い竹に穴を開けて酒を注ぎ、焚き火の熱で燗をしている光景だ。少々慌てる。ホスト数人に頑張ってもらおう。竹を刈りにノコギリを手に里山へ。酒を注ぎやすく筒の先を斜めに切る者。急いで対応しているところに「杯も竹の節を活用しよう」との注文が加わる。とにかく30個を作った。あとはコップでどうぞ。

6本の竹筒の酒は足しても足しても空になる。最後は日本酒に焼酎を継ぎ足すミスも。抗議する人はいない。みんな優しい。ならやま恒例の宴席風景を再現することができ、ほっとした。酒は一滴も残らず。

田中克彦さんからは手作りのお雛さんを28組も寄贈してもらった。これは1、2年生がいただきました。数点余ったのは、ならやま恒例の「最初はゲー」で決めた。

最後に1年生への伝言。太目の孟宗竹を2本伐採。1本を3本に切り6本の竹筒を作る。焚き火の傍に筒をもたれさす杭と棒が必要だよ。独特の竹の風味が溶け込んで旨くなる。当会の野外の宴で必ず準備する伝統の熱燗だそうだ。注ぐと、かぼかぼと音がすることから「かっぱ酒」というと教わる。